

老犬の世話



「老犬は、はき慣れた古靴のように、具合がいい。ちょっと型くずれして、あちこち擦り減っているけれど、びったり合うのだ。」

長年、私は多くの犬を飼ってきました。子犬の時から老犬になるまで面倒を見た犬も何匹もあります。それぞれに個性豊かで、かけがえのない存在でした。1匹の犬を失うことは1人の親友を失うことであり、代わりをもって補うことはできません。シールは、私の家で飼われている20頭の犬の中で最高齢です。山道に捨てられているのを見つけた時は、まだ3か月の子犬でした。ぴっこを引いていたのですが、誰かに前足をつかんで振りまわされたため、骨が定位置から外れて飛び出たらしいと後でわかりました。彼女を診察した獣医師は、足は元通りにならないし、痛みも一生残ると宣告しました。このとき、私は思案しました——安楽死させた方がいいかも……と。しかし、彼女はあまりにも幼く、これからの長い一生を考えると、決断を下すに忍びませんでした。数年後、別の獣医師から言われました——「この子の足はもっと若い頃に手術していたら元通りになったかも知れませんよ」と。現在18歳のシールは未だにぴっこを引き引き歩いています。冷たい雨が降り続くようなときは、足が痛むのでしょうか、外に出ようとせず、火のそばの椅子に丸くなって寝ています。そうかと思うと、別の日には、まるで子犬のように山道を駆け上がったりします。私は、彼女がしたいようにさせています。外に出たがらないのに無理に連れ出したりはしません。彼女は、かまってほしいと自分から甘えに来るタイプではないけれど、私がそばに寄って、話しかけ、抱きしめてやると、愛情を感じ、喜んでいるのがわかります。彼女の年齢からして、遠からず「お別れの日」が来ることは覚悟していますが、それまでは、毎日、毎日が私とシールにとって「思いがけない幸せ」なのです。

老犬とは何歳から？

人間と同様、犬の老化も個々によって様々です。幾つかの特定の犬種、雑種、それに、小型犬は長生きする傾向にあります。体重10キログラム以下の犬は12歳かそれ以上になるまで老化現象を示さないかもしれませんが、一方、大型犬は、8、9歳で老犬になります。

老犬を健康に保つ秘訣は？

1. 求め得る最良の獣医をさがして、いつでも相談できるようにしておきます。半年毎に健康診断をしてもらいます。信頼できる医師で、あなたも犬も気持ちよく感じられる人が望ましいでしょう。

2. 愛犬に行動の変化や老化現象が見られないか、注意を怠らないこと。

3. 可能な限り良質の食餌を用意すること。1日1食大量に与えるよりも、2、3回に分けて少しずつ食べさせる方がよい。

4. 食べ物を与え過ぎないこと。肥満は健康に悪いし、犬の寿命を縮めます。

5. 老犬にも適度の運動が必要ですが、能力の変化に気をつけなければなりません。

6. 歯の健康に気を配ること。毎日歯を磨いてあげてください。獣医師による歯の手入れも必要です。

7. 飼育環境を清潔に保ち、ノミとダニ対策を行ないます。

8. なるべく、老犬をあなたの生活の中心に入れて、行動を共にしてください。できる限りのことをして、犬の興味を引き出し、活動させたり、喜ぶこと、気持ちよく感じることをしてあげます。

老化現象とは？

1. 最初にあらわれる老化現象のひとつは、動作がにぶくなることです。寝ている姿勢から起き上がったり、歩き出すのに時間がかかるようになります。

2. 行動の変化には次のようなものがあります。分離不安：老犬をひとりにしておくと、破壊的になる、くんくん鳴いたり、吠えたりとか、「おもらし」をするなどの行動が見られたりします。

3. 物音に敏感になる：これまで問題のなかった雷鳴を老犬は恐るようになったりします。一方、若い頃は音に神経質だったのに、聴力の衰えのために反応を示さなくなる犬もいます。

4. これまでになく攻撃的になる：関節が痛むせいであったり、新しい人や環境を受け入れられないことが原因の場合もあります。老犬は生活の変化を好まないものです。

5. 混乱、注意力散漫、方向感覚を失う、ぐるぐると円を描いて歩きまわる、むやみに吠える、引きこもる、排泄の失敗——これらは、すべて、老化に伴う変化です。

6. 視力、聴力の問題：目と耳の衰えには、家具の置き場所を変えないとか、名前を呼び代わりて手をたたくなど、できるだけ適切に対応します。

7. 白髪と乾燥肌：体毛の手入れをいっそう念入りにすること。マッサージは皮膚と毛の状態を改善するのに役立ちます。

獣医師による健康診断と、老齢期に多い病気

半年毎の定期検診が必要です：触診による全身チェック、血液検査は不可欠、心電図とか、その他、犬の病歴に応じて特別の検査を行なう。

次のような徴候があれば、すみやかに獣医師に見せること：体重の急激な減少、著しい食欲

減退、食欲増加にもかかわらず体重が増えない、下痢や嘔吐のどの乾きと排尿量が多くなれば、糖尿病が疑われる。疲れやすい場合は、心臓または肺疾患の徴候が咳、過度の息切れは心臓疾患の疑い。寝た姿勢から起き上がるのが困難であれば、関節炎の可能性あり。

歯の手入れ

若い頃から固いガムやビスケットを噛んでいれば、老年になっても、きれいな歯をしているはず。しかし、アークに保護される老犬の多くは歯の手入れが悪く、ひどい歯肉炎や口内感染症にかかっているケースが多いです。それは他の重要な器官に伝播して、犬の寿命を縮めることにもなりかねません。早い時期に歯の手入れを始めていたなら、ペットは、もっと丈夫で長生きしたかもしれないのです。一般的に言って、口臭の原因は、歯垢がついているか、歯肉炎です。愛犬の息が臭ければ、獣医師に相談します。感染症がひどい場合は、歯垢を取ったり、麻酔をして歯を抜くなどの措置が必要です。

運動

運動は、犬の体と心を健康に保つために欠かせない要素です。年を取っても、関節の老化と肥満防止だけでなく、心臓、肺、血液循環、消化機能を低下させないために必要です。長い散歩を1日1回するとか、食事前の運動というよりは、毎日、2、3回に分けて短めの散歩をする方が望ましいです。暑い夏の間は、早朝と夕方の涼しい時間を選び、日中は避けること。表面が熱くなる舗道や道路を歩かせないように。冬は、気温が上がって暖くなるまで待ちます。老犬を暖房のきいた家から寒い戸外に連れ出すときは、雨風を防ぐ暖かいコートを着せた方がいいでしょう。

ノミ、ダニ対策

アークにやって来る老犬の多くは、ノミによる皮膚炎やアレルギーを持っています。老犬は、皮膚が乾燥し、免疫力が衰えてくるため、ノミに刺されるとアレルギー反応を起こしやすいのです。若い頃には皮膚のトラブルがなかった犬も、年齢を重ねるにつれて、ノミ対策がますます必要になってきます。ノミ防止用の首輪とかシャンプーは効果がなく、それどころか、有害なことさえあります。どんな駆除方法がよいのか、獣医師に相談してください。ただし、犬の体からノミを全部除去したとしても、飼育環境を清潔に保つ必要があります。ノミの幼虫やさなぎ、卵は、カーペット、家具、寝具、床、壁、庭、植物などから見つけることが多く、愛車の中にも潜んでいたりするからです。ダニの場合は、一般に、山道や草地を散歩している時に付着します。犬の被毛の中に手を深く入れて、顔、耳、脚部、前足、胸、腹部の地肌に沿ってすべらせてみると、食いついているダニを指先に感じる事ができます。できるだけ頭部に近い部位をつかんで、ダニをすっきり取り去ってしまわなければなりません。消毒液が石鹼水につけて殺します。

被毛の手入れ

老犬の毛と皮膚は、若い頃のように良好な状態を維持しにくくなっています。昔に比べて、血行が悪く、筋肉も衰えているからです。毎日のブラッシングは、毛をきれいに保つだけでなく、ペットの体にじかに触れるチャンスになり、それによって犬の健康を促進すると同時に、安心